▲△▲　甲斐駒ケ岳～日向山 周回縦走　▲△▲

（報告）Ｆ島

◎期日：2019 年 9 月 14 日～15 日

◎メンバー：Ｆ野（L）、Ｆ島（記録）

◎コース概要：

9/14　竹宇駒ヶ岳神社～七丈小屋～甲斐駒ケ岳～六合目石室（避難小屋）

9/15　六合目石室～三ッ頭～烏帽子岳～大岩山～日向山～竹宇駒ヶ岳神社

Ｆ野さんが前から気になっていたルート、黒戸尾根を登り甲斐駒から鋸岳へ向かう途中の三ッ頭から大岩山までの八丁尾根、日向八丁尾根を日向山まで踏破する周回縦走を行った。八丁尾根は廃道になっていたが近年、七丈小屋の先代管理人さんが登山道を再整備されたため、歩けるようになった。そしてようやく今年の地図から破線ルートが記入されて、登山者にとってはこの上なく有りがたい。

自分にとって 6 年ぶりの南アルプス登山になる。奇しくも、前回も黒戸尾根からの甲斐駒であったが今回はどんな山行になるか楽しみだ。

七丈小屋壁の略地図（先代の管理人さんの頃から提示されている）

【9/14】

前日 9/13 に道の駅はくしゅうの駐車場で前泊し、早朝に竹宇駒ヶ岳神社登山口へ向かった。現地駐車場は早朝にも関わらず第一駐車場は満杯だった。登山者に加えトレランの人が多い。神社で安全祈願を済ませ、出発。我々は重装備のため、ゆっくりと歩きだし、長く続く樹林帯はひたすら登る。Ｆ野さんは体を持ち上げる踏ん張り所で「よいしょ！」と声を出し「よいしょばっかりだよ」と苦笑い。

急に視界が広がると黒戸尾根名物の刃渡りだ。八ヶ岳、富士山、鳳凰三山を眺めることができ、大快晴。初秋の南アルプスは清々しく、今日は空気が澄んでいてとても心地良い。絶景も束の間、刃渡りが終わると再び樹林帯に入り先を進む。

刃渡り

五合目小屋跡を過ぎてから七丈小屋までは梯子の連続で、地図では屏風岩と書いてある。正午を前に七丈小屋に到着。ここがあっての黒戸尾根登山であり、オアシスのようだ。冷えたコーラをグイッと飲む。ビールを飲みたいけど、ここは我慢。今夜は小屋もテント場も満員のようだ。以前訪れた際は、第二小屋に泊まったなあと思い出し懐かしく感じた。

七丈小屋の２つのテント場の傍を登り、甲斐駒山頂を目指す。この辺りから空が曇ってきて周囲の眺望はなくなった。八合目に着き、やっと甲斐駒山頂が姿を現す。時折青空が出て流れの早い雲が山頂を見え隠れしている。「甲斐駒カッコイイな～」自分のお気に入りの山のひとつなのです。

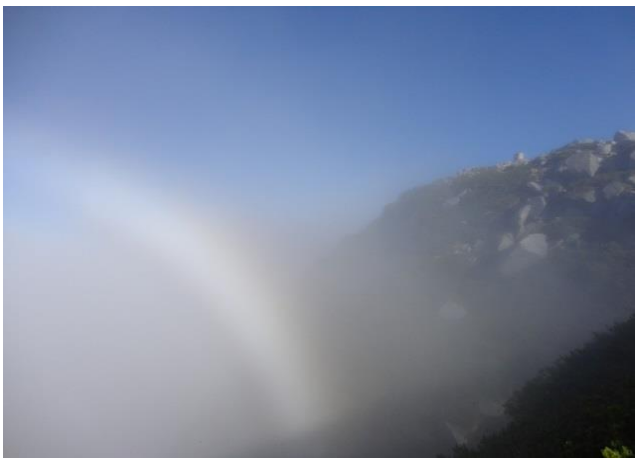
八合目から甲斐駒

鎖の岩場、ガレ場を登って、やっと山頂に到着！登山者は他にはおらず静寂の甲斐駒ヶ岳山頂だ。周囲を見渡せば雲海が白い絨毯の様に広がり高山のみ雲から山容を現している。山頂でゆっくりしたいが、時間に余裕はないので記念写真を撮り六合目石室を目指す。これより鋸岳方面は注意！の看板がありヘルメットを被ることにした。甲斐駒の特徴である白い砂と岩場の稜線を下る。ルートが分かりにくく、気が抜けないのだが、青空と雲海と甲斐駒の稜線が素晴らしく写真を撮る方に気が向いてしまう(笑)。

甲斐駒山頂

北岳、鳳凰三山、仙丈ケ岳、塩見岳、赤石岳、赤岳と南アルプス山系の主要な山が見えて、素晴らしい眺望にテンションが上がる。

ふと右側を見ると、白い虹（霧虹）とブロッケン現象に出くわした。白い虹は初めて見た。七色の虹は雨粒に太陽光線が当たり見える現象だが、白い虹は霧粒に太陽光線が当たり見える現象とのこと。霧粒は小さいので、光の屈折角度の幅が広くなり、色が分かれずに重なって混じり合って見えることで白く見えるのだ。写真にも撮れていて幸運だった。また、雷鳥にも遭遇し、本日 2 回目の幸運な出来事。この日この時この場所に来て良かったと心底感じた。



白い虹

ブロッケン現象

険しい岩場を下り、どんどん標高を下げて雲の中に突入すると、さっきまでの明るい稜線から雰囲気がガラリと変わった。早く小屋に着かないかと、少々疲れを感じながら、やっと六合目石室に到着。文字通り壁が石づくりで頑丈ないい避難小屋だ。満員だったらツェルト使用かと懸念していたが、10 名収容可（地図に記載）の所、宿泊者は我々含め 7 名だった（10 名だとキツイかな・・）。

しかし、今日はまだ終わらない。六合目石室から往復 30 分かかる水場*1 まで水を汲みに行かな

稜線から甲斐駒

ければならない。場所が明確でないため、他の登山者から情報を手に入れて、水場へ向かった。幸いにも湧水は豊富に出ていて、これぞ「南アルプス天然水」だ。何とか暗くなる前に戻ることが出来て、本日はこれにて山歩き終了。小屋の外で晩酌と食事をし、明日の英気を養う。

*1　六合目石室から登山道を下ったテントを張れそうな砂地まで行き、三ッ頭方面に向かって左側の斜面に入口があります。急斜面を 10 分程下ると水場があります。

【9/15】

夜明け前、空は満月が明るく月明かりが雲海を照らす神秘的な光景。小屋の正面から見える仙丈ケ岳に、登山者のヘッドライトらしき光が見える。

朝食を済ませてから小屋を出発し三ッ頭を目指す。天気は素晴らしく良く、横一線の中央アルプスの山々に朝日が当たり、オレンジ色に色づく。樹林帯と稜線歩きが混ざった登山道を暫く進むと、三ッ頭のピークに到着。ここから少し進んだ樹林帯の中に、鋸岳方面と烏帽子岳方面との分岐点があった。鋸岳はまた今度！

六合目石室

ここから今回の核心部、八丁尾根が始まる。分岐点から岩場を登ると程なく烏帽子岳の山頂に到着した。ドッカーンと右に甲斐駒ヶ岳、左に鋸岳が大迫力で鎮座している。北アルプスの穂高、大キレット、槍がはっきり見える。八ヶ岳全景も美しい。下は流れる雲海。見事な絶景を楽しむことができた。

鋸岳

烏帽子岳山頂

さて、下り始めると岩場から深い森に入り急な下りに入った。ここからは樹林帯続きだろう。これが南アルプスの地図上破線ルートか。黒戸尾根とはまた雰囲気が異なり、より原生林に近い感じがする。自分が先頭で進んだが、何度かコースを外れてしまう場面があり、後ろを行くＦ野さんが直ぐにフォローしてくれた。こんな時、大ベテランは頼りになります。登山者が少ないため、踏み跡が明確でなく分かりにくい箇所や、踏み跡があっても必ずしも正解ではないので、視野を広くして目指す方向やテープがあることを確認して、少しでもおかしいなと思ったらすぐ見直して確認するのが鉄則！と頭では分かっているが、間違いに気づくのが遅いかな・・・。

烏帽子岳から 3 時間かけて、大岩山の直登前のコルに到着。ここから大岩山山頂まで 150mを一気に登る。黒戸尾根の屏風岩に匹敵する壁のような勾配だ。登り始めると、よくぞ整備してくれたなと感心するくらいに丁寧にワイヤーや鎖、ロープが取り付けられていて、スムーズに登れた。しかし、ここを重荷で下るのは難儀だろう。

大岩山の登り

大岩山山頂

大岩山山頂に到着。日向山方面から大岩山ピストンの地元の登山者が休憩しており、Ｆ野さんとその登山者で七丈小屋の先代管理人さんの話をされた。自分は顔も知らず、話したこともないが（以前小屋に泊まったのに・・）登山者のために尽力されたお蔭で、こうやって安全に登山ができるのだなと感謝しなければ。

山頂を過ぎてもまだ破線ルートだが、幾分登山道が歩きやすくなって、ルートも明瞭である。単調なので気が抜けたのか、眠気が襲ってきた。気が抜けた時が危ないので、飴を舐めながら眠気をこらえる。

鞍掛山分岐に到着。ここで破線ルートは終わりになる。さすがに鞍掛山へ行くのはパスして先を急ぐ。この辺は天然のカラマツが豊富だ。リュックにベタベタした樹液が付いていた。何かの拍子に付着したのだろう。

日向山

本山行の最後のピーク、日向山が徐々に近づく。さっきまで曇っていたが、また晴れてきて、木の間からキラキラ輝く明るい山体が見え隠れする。道は大きい岩が増えてきて、歩き応えのある登山道になってきた。

樹林帯が開けると、目前に日向山が姿を現した。ここは砂浜かと思うほどの白さ。山頂まで登るとオブジェの様な岩群が連なっているのが見える。変わった山だ。

山頂からは少し離れた三角点に立ち寄り、日向山の登山口の矢立石を目指す。ハイキングコースなので、優しい登山道ではあるが、異様に長く感じ矢立石に到着した。ホットしたが、ここから更に駒ヶ岳神社を目指して下る。やがて行きに見かけた茶屋に到着し無事下山！ ベンチに座ってスポーツドリンクを飲むと達成感が湧いてきた。

思い返すと、ボリューム満点のタフな山行だった。クラシックルートである黒戸尾根、雲上の稜線歩き、深い森の破線コース、ハイキングコースと変化に富んでいて、久しぶりの南アルプス山行を楽しむことができた。

＜登山データ＞　*参考までに同コースを辿った他登山者の記録を HP より転記

移動距離：22.4 ㎞　　累積標高差：3125ｍ

＜参考コースタイム＞

9/14

竹宇駒ヶ岳神社登山口	05:10
笹ノ平分岐	07:20
刃渡り	09:15
刀利天狗	09:40
五合目小屋跡	10:30
七丈小屋	11:50
七丈小屋発	12:20
八合目	13:20
甲斐駒山頂	15:10
六合目石室	17:20

9/15

六合目石室	05:25
三ッ頭山頂	06:40
三ッ頭分岐	06:50
烏帽子岳	07:05
大岩山山頂	10:45
鞍掛山分岐	12:25
日向山山頂	14:20
竹宇駒ヶ岳神社登山口	16:30

（了）